
「マイクロ RNA 制御因子の発現パターンに着目したがん分子病態の解析」 に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、【埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと
行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等
を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人
の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になる
ことは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2025年10月1日から2028年8月31日の期間に埼玉医科大学国際医療センターを受診し、病理学的に大腸がん又は肺がんと診断され、当院において外科手術が予定されている患者さんに対し、外科主治医（インフォームド・コンセント取得者）より、手術前に本研究について説明を行い、文書による同意が得られた方を対象としております。

2. 研究の目的

がんの発症や病態の悪化には、細胞増殖やストレス応答の破綻が深く関与していますが、そのメカニズムは未解明な点が多いです。近年、我々は遺伝子の働きを制御に重要なマイクロ RNA 調節タンパク質 TRBP (TAR-RNA binding protein) に、従来知られているものとは異なる機能をもつものが存在することを発見し、これらが細胞増殖に影響を及ぼすことを明らかにしつつあります。さらに、TRBP はがんの予後に影響することを示す報告もすでにあります。特に、我々が発見した新規 TRBP 分子はこれまで知られているものとは異なるメカニズムで細胞の働きを制御する可能性があり、がん化との関連性がとても注目されています。本研究では、埼玉医科大学国際医療センター（川崎 朋範）からヒトがん検体を埼玉大学（高橋 朋子）に提供し、これを用いて TRBP タンパク質の細胞内での状態とがんの関連性を解析し、がんの発症や病態悪化を制御する新たな薬剤標的としての可能性に関する研究を行います。本共同研究により、RNA 制御因子に着目した、がんの新たな診断・治療戦略の創出のみならず、他の疾患における RNA 制御ネットワークの理解にも波及効果をもたらすことが期待されます。なお、本研究はがん組織における遺伝子発現制御機構を解析するものであり、遺伝性疾患の診断や予測を目的とするものではありません。本研究で得られる結果は臨床的意義が確立しておらず、研究対象者個人への結果の開示や遺伝カウンセリングは行いません。

3. 研究期間

病院長の許可後 ～ 2028年9月30日

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後より1ヶ月後程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

ア) 試料： 余剰病理検体（外科検体）

余剰病理検体とは、手術標本における病理学的評価に支障のない範囲の組織のことです。埼玉医科大学国際医療センターにおいて、外科手術日に切除された標本から病理医（川崎 朋範）が腫瘍の一部（最大でも 1x0.5x0.3 cm 程度、50~100 mg 程度）および非腫瘍部（同量）をメスないし生検トレパン（皮膚組織検査などに使用されるディスポーザルタイプの筒状メス）を用いて研究試料として採取いたします。採取された試料は、共同研究施設である埼玉大学に仮名加工された状態で提供され、そこで解析が行われます。

イ) 情報

・ 患者背景

年齢、性別、身長、体重、喫煙歴など

・ 診断時情報

組織型（腺癌、扁平上皮癌、神経内分泌腫瘍など）、免疫組織化学結果、病期分類、術後再発、化学放射線療法後の再発、胸水・腹水の有無、血液検査所見など

※ この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究代表者・当院研究責任者である川崎 朋範が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

病理学的に大腸がん又は肺がんと診断され、当院において外科手術が予定されている患者さんに対し、外科主治医（インフォームド・コンセント取得者）より手術前に本研究について説明を行い、文書による研究参加の同意が得られた方の検査を実施した際に生じた残余検体、検査データおよび診療記録等を用います。診療情報の取得は国際医療センターの電子カルテから川崎 朋範（研究代表者・当院研究責任者）が行い、データの加工はエクセル（パスワード付）を用いて実施します。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科 川崎 朋範（研究代表者）

埼玉大学大学院 理工学研究科 高橋 朋子（研究責任者）

4. 試料・情報の管理責任者

<提供元機関> 埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯 俊昭

<提供先機関> 埼玉大学 学長 坂井 貴文

5. 試料・情報の提供方法等について

＜試料＞ 個人が特定できないように加工した検体を専用容器に封入し、追跡可能な輸送方法により、埼玉大学へ送付します。

＜情報＞ パスワードをかけた電子ファイルを、メールで送信します。

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

・ご希望があれば、他の患者さんの個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧することができますので、以下の連絡先までご連絡ください。

埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科 川崎 朋範

住所： 〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話： 070-1799-7170（土日祝日を除く 8：30～17：30）

メールアドレス：tkawasak“AT”saitama-med.ac.jp（“AT”を@に置き換えてください）

○研究課題名： **マイクロRNA制御因子の発現パターンに着目したがん分子病態の解析**

○研究責任（代表）者： 埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科 川崎 朋範